

# 学 校 經 营 研 究

○ 2 支会小学校経営研究会	-----	147
○ 3・5 支会小学校経営研究会	-----	149
○ 4 支会小学校経営研究会	-----	151
○ 2・5 支会中学校経営研究会	-----	153
○ 3・4 支会中学校経営研究会	-----	155

## 「生きる力」をはぐくみ、特色ある教育活動を推進する学校経営

### I 主題設定の理由

完全学校週5日制のもと、ゆとりの中で「生きる力」を育むための学習指導要領の施行を控えた平成11年から学力低下が議論されてきた。また、子供たちに基礎・基本を徹底し、「生きる力」を育むことを基本的なねらいとする学習指導要領のさらなる定着を図るために平成15年12月には学習指導要領の一部改正が行われた。

本支会では、各学校の特色ある教育活動の実践の取り組み状況を情報交換するなかで本年度から旧山梨市の小学校で実施されている二学期制を中心に検討を進め、「生きる力」をはぐくむ特色ある教育活動のいっそうの充実・発展を図っていくために本主題を設定した。

### II 研究の概要

本年度から旧山梨市内の小学校も一つの学期が長い期間の中で、ゆとりある教育活動を展開し、子供たちの学習がいっそう充実・発展することを目指して二学期制を導入した。校長としてその趣旨を生かしながら、学校づくりをしていかなければならない。「生きる力」を育む特色ある教育活動を二学期制の中でどのように実践していくべきか研究を進めてきた。

#### (1) 昨年度の研究

すでに二学期制が導入されている中学校との連携を図るなかで、小学校の二学期制が意義ある制度導入となり、スムーズに行えるよう保護者、教職員、児童の十分な共通理解を得て実施するために二学期制推進委員会が設置された。その中に6部会が組織され、広報活動、通知表・成績表、学校行事を中心にした年間指導計画、授業時数確保のための教育課程編成など、二学期制導入に伴う条件整備について検討された。

研究を進めるなかで、二学期制の趣旨を踏まえて「学校長としての経営ビジョンをどう職員に伝え実施していくか」が大事であること、地域・保護者への説明責任を果たすこと、夏季休業、冬季休業の意義を見直し、「学びの継続」について共通理解を図ること、「特色ある教育活動」を創造していく中で、教育活動の価値の見直しをすること等課題として出てきた。

#### (2) 本年度の研究

昨年度の取り組みのなかで得た成果と課題をもとに、本年度各学校で取り組んで

いる二学期制の実践をもとに成果と課題を検討してきた。概要を視点ごとに整理した。

#### ① 保護者の理解

○中学校が先行していることもあってか、問題なく受け入れられているが反応も特にない。

●より多くの情報提供を心がけようとする、職員の意識を高めることが必要である。

#### ② 通知表(各校により異なる方法・内容)

○2回になりじっくり評価できるようになった。

○夏休み前の学習・生活の様子で課題を持って休みを過ごせた。

○見直す中で評価の改善につながった。

●市内で基本的な事項はあわせることも必要。

●1年目ということもあり、評価の仕方・手順等に戸惑いもあった。

#### ③ 夏休みの意義

○猛暑を避け、家庭や地域での主体的な活動により学校では学べないことを学習することは変わらない。

○学びの継続のため各校の取り組みがあった。

●学びの継続というが、学習の連続性をどのような形で行うことがよいか課題。

#### ④ 授業時数確保

○時数は確保でき、休み前の指導はゆとりができた。

●確保されたとされる休業前後の午後の暑い時間の扱いは課題である。

#### ⑤ 年間指導計画

○2学期を4ステージで実施し計画を立てやすくなった学校がある。

●夏休み明けは、作品整理、水泳記録会、運動会、学期末のまとめと出張が重なりあわただしい。

●3学期制のところもあり、行事の時期や出張など無理を感じることもある。

#### ⑥ その他

●長期休業を節目とした、けじめがない感じがする。

### III まとめと課題

二学期制を実施し、まだ1年を経過していない。1年目であるがための課題も多い。成果と課題を受け止め、より効果的な二学期制に向けて地に着いた取り組みを進めていくことが必要である。

(部長 丸山 森人)

## 豊かな心と道徳的実践力を育てる教育活動

### 豊かな心をはぐくむ学校・家庭・地域社会との連携

#### I 主題設定の理由

近年、少年による凶悪な事件が頻発し、少年非行が社会的に大きな問題になっている。また、いじめ、不登校、ひきこもりなど少年をめぐる様々な問題が多発している。このような問題に適切に対応するために、道徳的な実践力を育てる教育教育活動の必要性が提唱されている。

また、学校教育は学校職員の考えだけでなく、地域、保護者の考えや希望も聞きながら学校教育をすすめて行く必要性が多方面から指摘されている。

このような時代背景の元、校長として、学校・家庭・地域との望ましい連携はどのようにあるべきか研究を深めていきたい。

#### II 研究の内容

##### 1 研究計画

###### 1年次

課題に対し共通理解を持つ。アンケートを実施して分析と考察を行なう。

###### 2年次

分析と考察の結果に基づき具体的な連携の手立てを考える。

###### 3年次

研究で深めた連携の方法を各校の実践に生かす。

##### 2 研究内容(本年度の研究は研究計画の2年次となります)

###### (1) A校の実践「保護者との連携を深める外部評価」

###### ① 成果

ア 保護者の学校教育への関心が高まった。

イ 保護者が学校教育に参加意識を持つようになった。

ウ 保護者が自分以外の保護者の考えを知ることにより、自分の考えを見直すことが出来るようになった。

エ 職員が、保護者の希望や要望を直接聞くことが多くなり、公教育、学校教育のあり方について考える機会が増えた。

###### ② 課題

ア 保護者の学校評価が学校経営に対する評価でなく、担任の学級経営評価になる傾向が見られた。

イ 保護者の学校評価を児童を通して担任が集めるため、保護者の中には担任の目を気にして自分の気持ちを抑える面も見られた。

エ 保護者から寄せられた学校評価の結果を、集計して保護者への返すか、それともそのまましておく方が良いかで意見の違いが見られた。このことについては、学校評価を保護者をお願いする時に、「結果は集計後、後日お返しします。」という一文を入れておくと、誤解が生じないので良いのではないか、とまとまった。

オ 学校評価の評価項目の内容、数については、専門用語は避け、あまり多くならないようにすることが必要だと言う意見が大勢を占めたが各校の実態、保護者の意識の違い等、地域の実状も考えていく必要も指摘された。

## (2) B校の実践「地域との連携を深める道徳授業公開」

### ① 成果

- ア 道徳授業参観を手がかりに、地域の方々の関心が学校へくようになった。
- イ 地域全体で学校教育を支援していこうという気運が高まった。
- ウ 道徳授業公開を通して職員の道徳授業実践力が高まった。
- エ 職員の中に、地域の民話などを調べ道徳の授業に使える地域教材を発掘していこう、という機運が生まれた。

### ② 課題

- ア 道徳教育のアンケートなどを実施すると、保護者からは道徳教育は大切だ、という答えが多く返ってくる。しかし、道徳の授業参観には国語や算数に比べ参加者が少なかったりと、保護者の意識のどこかに道徳教育を軽視する傾向が見られる。子どもたちの道徳心を高めていくためには、この保護者の意識を変えることが必要なのではないか。
- イ 道徳授業公開は地域人材を講師として活用する実践が多い。招聘した講師にもよるが、授業によっては講師の説話をただ聞いているだけというような授業になることもある。良い道徳授業と外部講師の活用の折り合いが難しい。
- エ 道徳は心の問題を扱うので、研究の成果が見えにくい。子ども達の道徳力がどれ程向上したか、という研究の成果がはっきり見える「物差し」のようなものがあると、職員にも児童にも励みになるのだが。

## Ⅲ 成果と課題

### 1 成果

- ① 各校の実践を元にした事例研究から、学校と家庭・地域との連携のあり方について研究し、校長としての学校経営力を高めることが出来た。
- ② 保護者の考えや要望をふまえた学校教育を行なうことが、学校教育に対する保護者の信頼を高めるのに役立つことが分かった。

### 2 課題

- ① 学校教育と家庭・地域との連携の必要性について、まずは学校職員の間で共通理解を図っていくことが大切だという指摘があった。
- ② 地域との連携といっても、多忙な中、子どもや孫が学校に通っていない家庭を学校の催しに駆り出すのは難しいことが指摘された。（部長 相川芳廣）

## 「主体的に地域に関わり、豊かな感性を育む教育活動」

### 一地域の特色を生かした教育活動一

#### I 主題設定の理由

子どもたち一人ひとりが生き生きと学習し、豊かな心を持ち、主体的に学び「生きる力」を育むことを目指した教育が進められている。

「生きる力」は、学校において組織的・計画的に行われる学習と家庭や社会における、未組織的、無意図的、無計画なふれあい、交流、体験などの様々な実践活動を通して根付いていくものである。

しかも、信頼と活力ある学校・家庭・地域との連携とその場における日常的、恒常的な教育活動がバランスよく行われる中で豊かに育っていきと考えられる。

「生きる力」を育む要素として、直接関わる自然体験や社会体験が重要であることは言うに及ばず、地域の中に生きる子どもたちが、身近な自然環境・地域社会・地域住民・文化財に交わり、触れる教育活動を仕組むことが必要であろう。

そこで、本研究2年次にあたり、地域に主体的に関わる具体的な教育活動として地域住民への積極的な関わりと交流を試みるための具体的な組織建てをし、そこを基点にして展開していこうと考えた。

学校内に、似通った趣旨をもつ組織が乱立することを避ける考えから、各校に存在する、推進協議会・懇話会・語る会(学校によって呼称が異なる)をベースとしつつ、より効果的な組織にしたいと考えた。

元々この会は、昨年度「特色ある学校づくり」を具現化し実効あるものにするため、当時、塩山市教育委員会の支援を得ながらの発足であった。勿論予算も計上され、その中身は広範にわたるものと予想された。

しかし、昨年度途中導入のため、その会員の要請や趣旨作りに追われ、具体的内容までの検討が不十分ではなかったかとの反省も聞かれた。

つまりは、これらの会に、地域と共存し共生する理念と性格を与え、且つ、学校が主体的に地域に関わる一つの手立てとして確立したいと考えた。

#### ii 研究計画

##### 第1年次

- ・研究協議題、研究課題についての共通理解と研究の方向性の確立

##### 第2年次(今年度)

- ・地域の特色と学校教育との連携を密にした推進協議会・懇話会の在り方研究

##### 第3年次

- ・集大成としての教育活動の実践と研究のまとめ

#### III 研究内容(話し合いの中から主な意見)

- ・会則で特に会長など限定していない。それは、「この会は、決議機関ではない。」「話し合いの内容」に拘束されるものではない。言わば、知恵を出し合う機会である。

- ・名称は各校異なるが、目的や方針には、学校の主体性を明記すべきであるし、多くの学校が明記している。
- ・組織作りでは目的、方針、活動の内容により、かなり学校の独自性があるがよい。
- ・単に充て職に頼らず「地域、地域の様子、地域の家庭のわかる」人あるいは、人物本位で会員に要請するのも良い。
- ・学校長の考えにより、企画計画相談の組織と、作業的な部分を受け持つ実行組織を分けて考えることも出来る。したがって、会員構成は、学校によってかなり違いがあるがよい。
- ・委員は校長が決める。
- ・地域防犯や総合学習の講師など実働的な組織を意識している学校は、おのずとその会員は多い。
- ・学校評議員との関連では、学校評議員もこの会の会員として参加要請している。
- ・学校評議員制と校内の懇話会は、位置付けや性格付けがちがう。学校経営の執行責任者としての学校長の教育哲学が必要である。
- ・情報交換が活発になり、学校外部評価への協力要請や防犯に役立つ地域の様子が克明にわかる。

#### IV 成果と課題

- ・学校の様子を保護者以外にも知ってもらうのに都合がよかった。
- ・校長の主体性が明確化され地域が協力する支援体制が取れた。
- ・会員それぞれに思いがあったが、情報交換をすることによりそれぞれの良いところが集約でき、自校の教育活動に役立った。
- ・講演会など「語る会」と共催をし、学校レベルに留めることなく、地域に広げていく形を作るべきだし、研究の結果、会員の位置づけがはっきりしたため協力して実施できるようになった。
- ・構成メンバーの役職に応じて依頼することが容易になり、学校行事への積極的な協力体制が計画できるようになった。
- ・この組織に参加される会員との交流は深まり、教育活動の外部講師としての会員への直接要請や特技を持つ人材の発掘情報も容易になった。
- ・地域協力が今日の教育環境を保持する大きな後ろ盾となるが、会員が地域への啓蒙活動に関わってくれるので、学校からの協力要請に応じてくれる度合の密度が濃くなった。
- ・学校評議員も含めた会員との交流が深まることによって、学校長が参考になる建設的な示唆があった。
- ・実働組織までの組織建てができていない学校では、早急に構成し、実行力のあるものにしたい。
- ・各校の独自性が見られ、地域と共存する理念と性格、学校の地域への主体的関わりなど地域の特色を生かした教育活動として良いと思われる。公共施設も地域の協力を得て、地域密着型で運営されている。地域パワーをいかに取り入れるかが非常に重要である。

(文責 永田 清一)

## 確かな学力の定着を図り、個に応じた教育を推進するための条件整備

### I はじめに

新学習指導要領に基づく教育課程の完全実施から3年を経過する中で、国際的に実施された学力調査の比較論議が多方面から取りざたされ、ゆとりの是非までに及びつつある。

どのような論議があるにせよ学校にとって「不易」であることは、一人ひとりの生徒に学力を確実に付けることである。そして、その学力とは、生徒が自ら課題を見つけ、自ら考え、主体的に課題を解決していくという学びの基本的な在り方に根ざした学力でなければならないということである。そのためには、教育課程そのものが「学び」を可能にするよう編成されていることと、教員の配置を含む条件が整備されることが必要であり、校長としての経営手腕が問われることになる。一人ひとりの生徒が存在感をもつて学校生活を送ることができ、生徒自らが個性伸張を図りながら学ぶ喜びを体験・体感できる条件整備でなければならない。こうした視点を踏まえて、本支会校長会では、豊かな心を育み確かな学力の定着を目指した取り組みを積極的に展開してきたところである。

### II 研究の概要

#### 1 研究計画

平成16年度（第1年次）

- ・「確かな学力の定着」のための各校（東山梨・東八代の中学校）の取り組みを整理し課題を明らかにする。

平成17年度（第2年次）

- ・課題解決に向けての方策を立て実践する。

#### 2 中学校への調査事項と各中学校での取り組み状況

##### (1) 調査事項

- ア、学力の定着を図り、個に応じた教育として取り組んでいることは何か。また、課題は何か。
- イ、学力の定着を図り、個に応じた教育を進めるためには、今後どのような取り組みが必要か。また、そのための条件整備とは何か。

##### (2) 研究主題にせまるための各中学校の主な取り組み

- ア、学習指導形態の工夫改善とそのための条件整備
  - ・きめ細やかな学習指導加配を活用した習熟度別学習集団編成



- ・選択学習を活用した習熟度別指導
- ・特設タイムを活用した個別学習(個別プログラム、自学自習)
- ・TTによる学習指導(国・数・英・社)
- ・始業前、放課後を活用した補充学習
- ・読書習慣の形成と国語力の向上を目指した読書の推進

イ、授業や評価の改善

- ・各教科における基礎・基本の明確化
- ・教科目標に準拠した評価基準の明確化
- ・各教科における生徒の課題の把握
- ・生徒の学習意欲の向上を図る通知表の改善
- ・学習の手引きによる学習体制確立のための個別指導

ウ、その他の取り組み

- ・家庭学習の習慣形成のための取り組み
- ・長期休業中の学習相談日の設定

### Ⅲ まとめと課題

「確かな学力の定着」に向けて個に応じた教育を進めるために、下記(1)の現状分析とそれに基づく方策を職員や保護者との共通理解のもとに、(2)のように必要な条件を整備し、実践し、評価し、再検討を重ねていくことが必要である。

課題解決に向けてのプロセスや課題解決のための条件整備において、どこに重点を置き取り組むかは、各学校の状況や教育環境によって異なるであろうが、校長として学校経営の手腕を発揮される場所であろう。また、内容的には、生徒の学習意欲をどう向上させるかが大きな課題であり、取り組みの創意工夫が求められている。

(1)「確かな学力の定着」のための学校課題の追究過程(課題解決に向けてのプロセス)

ア、学校評価等による学校課題の把握

イ、学校課題の共通理解

- ・職員及び保護者等との課題把握と共通理解に向けての取り組み

ウ、課題解決に向けた方策の樹立(課題分析と諸条件を勘案した方策)

エ、実践・評価

(2) 課題解決のための条件整備

ア、人的な条件の整備(教職員等の配置等)

イ、物的な条件整備(施設整備、教材教具等)

ウ、財政的な裏づけ(各種予算措置等)

エ、推進上の整備(実践上の課題解決に向けて、諸課題との取り組み方法の共通理解等)

今後も、今までの取り組みを総括し、成果と課題を明らかにする中で、継続的な研究を推進していかなければならない。

(部長 窪川 義徳)

~~~~~  
3・4支会 中学校学校経営研究会  
~~~~~

## 個を生かし、確かな学力と豊かな人間性をはぐくむ教育の推進と学校経営

～個を生かし、豊かな人間性をはぐくむ教育を推進するための条件整備～

### I 主題設定の理由

生徒や学校を取り巻く社会の急激な変化は、生徒の心の有り様や生き方など、学校生活だけでなく、日常生活すべてにおいて大きな影響を与えているのが現状です。社会がこれまでになく急激な変化をしている現在、生徒がこれらの変化にたくましく対応し、主体的・創造的に生きる資質を積極的に培う必要がある。

また、「生きる力」の中核をなす「豊かな心」をはぐくみ、個性を生かす教育を一層充実させることが強く求められている。

学校では「生きる力」の育成を目指し、生徒一人一人の個性を大切にする中で、個に応じた学習指導のあり方や工夫。また、豊かな人間関係づくりなど、柔軟かつ効果的な教育活動を展開していく必要がある。

そのためには、校長がリーダーシップを発揮し、計画的・祖ちきてき・継続的指導を行うための教育環境や指導体制などの教育条件を整備し、学校・家庭・地域社会との連携を図りながら、各学校の環境・条件・実情に応じた特色ある学校づくりを水寸して行かなくてはならない。

本テーマの研究は本群3年目を迎え、「生きる力」の核となる「豊かな人間性」をはぐくむ教育環境の整備をどのように整えていくかを課題として、各学校で豊かな人間性を育成し、個を生かした指導の実践により積極的に取り組んでいき、本テーマに迫ることとした。

### II 研究の概要

#### (1) 研究計画

- ・1年次・・・豊かな人間性をはぐくみ、個性を生かした教育にかかわる失態調査
- ・2年次・・・実態調査の考察及び実践
- ・3年次・・・実践の反省と研究のまとめ

#### (2) 研究の内容

1年次に行ったアンケートから実態を把握し、2年次・3年次へ実践を積み上げてきた。

##### ①豊かな人間性をはぐくむための取り組み

ア、教科指導の中で実施してきたこと

- ・ T T ・ 習熟度別指導や評価の工夫を実施
- ・ 地域の人材・教材の活用
- ・ 体験を生かした授業の実施
- イ、 道徳教育の中で実施してきたこと
  - ・ 心のノートの活用
  - ・ 地域への授業公開と地域の人材の活用
- ウ、 総合的な学習の中で実施してきたこと
  - ・ 体験的な学習の重視とボランティア活動
- エ、 特別活動の中で実施してきたこと
  - ・ あいさつ運動の推進・どくしょかつどうの推進・環境美か活動の実施
- ② 個を生かす教育を推進するための取り組み
  - ア、 教科指導の中で実施していること
    - ・ 習熟度別指導・ T T 指導・表現力の重視・評価の工夫
  - イ、 道徳教育の中で実施してきたこと
    - ・ 心のノートの活用・基本的な生活習慣の徹底・授業の改善・資料の活用・地域の人材活用
  - ウ、 総合的な学習の中で実施してきたこと
    - ・ 進路指導・職場体験学習の実施
  - エ、 特別活動の中で実施してきたこと
    - ・ 教育相談・生徒会活動・部活動の活発化
    - ・ スクールカウンセラーの活用・保護者による学校評価の実施

### III まとめと課題

#### (1) 実施していく上での課題

- ・ 教員の加配・体験学習の場所の確保・財政面の確保・時間の確保・安全面の確保・教師の共通理解・評価の工夫・遅れがちな生徒への支援など

#### (2) 必要な条件整備

- ・ 道徳の時間の確保・協力して頂ける地域の人材の発掘・教員の定数の改善・少人数クラスの実現など

### IV 成果と課題

個を生かすということは、一人一人の考えや意見を生かし、尊重されることであります。このことは豊かな人間性や好ましい人間関係をぬきには考えられません。今後このテーマの重要な視点としては、学力低下の問題・子供達の安全の問題など、ますます増大していく、社会からの切実な要望をどのように受け止めていくかが考えられます。また、厳しい財政に中、校長としての先見性・企画力・判断力による強い指導性・総合調整力が必要です。さらに、教育上県政日での校長の役割の中で重要なことは、校内研究体制はもちろん、個人研究への積極的な援助と奨励ではないかと思えます。個々の教員の教育力向上が、あらゆる教育条件に的確に対応できる者と思えます。

(責任者 奥山 実)